

令和4年度 【丹波市】 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員： 5 名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - ・ 普及啓発
 - ・ 定期相談（認知症疾患医療センターとの連携）
 - ・ 認知症介護者支援（認知症疾患医療センターとの連携）
 - ・ 認知症疾患医療センターと包括との連絡会
 - ・ 認知症初期集中支援事業（実務者会議）の実施
 - ・ 認知症ガイドブックの見直し・印刷・配布（医師会、歯科医師会、薬剤師会、民生委員協議会、介護サービス事業所など）
 - ・ 認知症サポーター養成講座実施（普及啓発DVD活用）
 - ・ 医療機関との意見交換会の実施
 - ・ 関係機関との連携（警察、駐在所との連携）
 - ・ 早期発見SOSシステムの拡大（QRコード、メール配信、防災無線の活用など）
 - ・ 認知症カフェ連絡会開催
 - ・ 認知症予防・早期発見・早期対応への取り組み

- ・ **世界アルツハイマーデー・月間普及**
- ・ **キャラバンメイト連絡会開催・企画・運営（ワーキング部会開催）活動**
- ・ **認知症サポーター養成講座修了者との新しい活動について**

報告者氏名

西部地域包括支援センター：中村奈央美

南部地域包括支援センター：山本悠子 東部地域包括支援センター：大久保真理

介護保険課：足立悟・荻野幸紀

【丹波市】 認知症施策全体図

- 丹波市の認知症施策の体系図

(丹波市第8期介護保険事業計画より)



標題 丹波市における

「認知症を地域で支える」理解を広めるための活動を展開

これまでの活動（認サポ開催、商業施設での啓蒙活動、市民講演会など）から
もう少し「地域で支える視点」を広げたい！



薬剤師会主催の市民講演会に、丹波市キャラバンメイト連絡会として協力。
薬剤師も含め、多職種キャラバンメイトで劇団「でいめん社」を結成。
寸劇で市民にアプローチ！

- ◆地域で実際に起こっている問題をピックアップした脚本を作成
- ◆配役や舞台設定を地域とリンクするよう工夫
- ◆市民へのメッセージを盛り込む
- ◆会場にて「気づき」を促すチェックシートなど情報を配布



具体的なサポート
「**気づいてつながる**」
ことを大切にしたい！



寸劇の1コマ

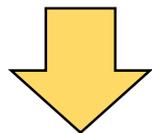


キャラバンメイトのメンバー挨拶

認知症サポーター養成講座修了者 座談会

これまでに認知症サポーター養成講座を修了された方と懇談会を2回実施。認知症の当事者や家族のために、具体的に何か取り組めないかを話し合った。

- ◆認知症施策の現状や課題を説明。
- ◆養成講座終了後、何か変化があったか。
- ◆自分や家族が認知症になった時、どんな地域だったらよいか。
何が必要だと思うか。



- ◆ご本人は何に困っているのか知りたい。
- ◆安心できる居場所があればいいのでは？
- ◆さりげない見守りや声掛けが大事。
- ◆本人が知らない人だと不安を感じるのでは。地域として関心を持ってほしい。



啓発活動の輪を拡大

メイトメンバーの意見により、アルツハイマーデーの活動をより広く実施

- ◆市内高校で認知症サポーター養成講座を実施
- ◆アルツハイマーデー啓発活動に同高校インターアクト部の生徒参加（チラシやノベルティの配布）
- ◆啓発に丹波市のゆるキャラ「ちーたん」が登場
- ◆各公的施設等でオレンジライトアップ
- ◆認知症啓発パネルを刷新
- ◆作成パネルの展示（市内商業施設、高校文化祭）
- ◆パネル作成や啓発活動の準備等、活動の要として認知症地域支援推進員が活躍



丹波竜のちーたん



商業施設内でのパネル展示



植野美術館のライトアップ

- 最後に・・・

丹波市では、当事者やその家族、キャラバンメイトのメンバーやサポーター等が、認知症の理解者、支援者として自分らしく活躍できるよう進めています。

コロナ禍において活動が制限される中で、今できることは何なのか当事者や支援者間で話し合いながらの活動を続けてきました。

認知症地域支援推進員はその要として、支援者と手を取り合って今後も活動を進めていきます。

無理なく楽しみながら、「わたし（たち）が描く、こうありたいまち」を目指して、新たな人や資源とつながっていきたいと思います。

